

### テーマ① 「働くこと」を考えよう (働く意味と法意識)

#### 概 略

人間はなぜ働くのか、働くことの意味を考える。  
そして「法」とは何か、「働くこと」と「労働法」の関係を考える。

#### アウトライン

□解説スライド ●ケーススタディ・スライド ◆データ・スライド

★★★…「労働法」等に関連する絶対知っておくべき重要なスライド

★★……知っておくと更に良いデータや「労働法」等の補足的なスライド

★……データやクイズ、その他参考となる「労働法」等のスライド

1. 「働くこと」は人間らしく「生きること」である。 PPT0-3

□「なぜ働くのか」について考える

2. 「法」とは、共に生きるための「約束こと」である。 PPT0-5

□法律について考える

3. 「働くこと」と「労働法」の関係 PPT0-6

□「働く」ための約束こと＝「労働法」

□安心して「働く」ための知識＝「労働法」を学ぶ

【本資料のスライド番号表記例】

[PPT0-3とは「パワーポイント資料テーマ0（「働くこと」を考えよう）3枚目のスライド」の意]

▶ PPT0-2 ★★★

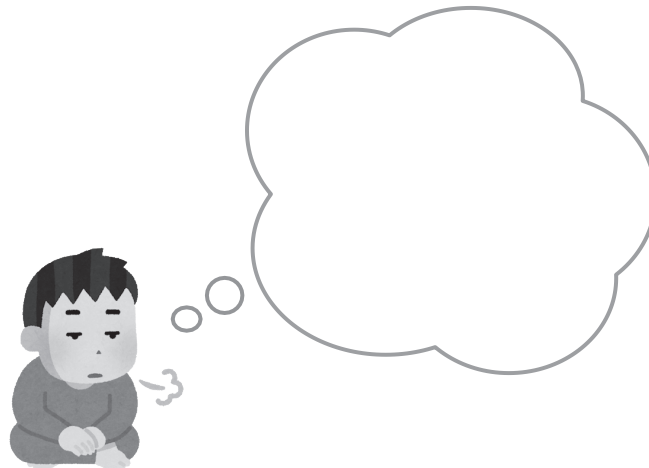
#### 「なぜ働くのか」について考える

あなたは「働く」ということに対して、どんなイメージを持っていますか？

「働かなくてはいけない」から働くのですか？

「きつい」「自由がない」など、ネガティブなイメージを持っていますか？

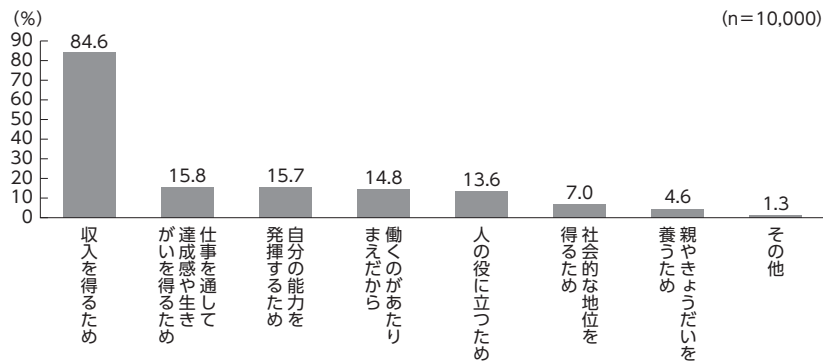
できれば「働きたくない」と思っていないですか？



## 「なぜ働くのか」について考える

「働く」のは収入を得るため…それはそうかもしれませんが  
しかし、それだけでしょか？

図表9 仕事をする目的(2つまで回答)



(注) 「あなたは、主として、何のために仕事をするのですか。(就業していない方は、あなたの仕事に対する考え方をお答えください。)」の問いに対する回答(2つまで回答)。

あなただったら、どう答えますか？ 考えてみましょう

出典：内閣府『平成30年度版子供・若者白書』図表9

[https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h30honpen/pdf/b1\\_00toku\\_01.pdf](https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h30honpen/pdf/b1_00toku_01.pdf)

## 「なぜ働くのか」について考える

「人間は一人では生きていけない動物」

そんな言葉を聞いたことはありませんか？

「なぜ、こんなにも  
いろいろな種類の仕事があるんだろう」  
と考えたこともあるでしょう。

社会をささえる様々な「役割」  
それを分け合っているのが「仕事」

「共生」「協働」  
というイメージを、描いてみましょう。

すべての仕事が、どこかで結びついているのです。



▶ PPT0-5 ★★★

### 「法律」について考える

逆にいえば…  
様々な人と「共に生きる」関係の総体  
それが「社会」です。

…とするなら  
その関係をできるだけ  
うまく運ぶために  
何らかの「約束ごと」  
が必要になってきます。

その「約束ごと」を  
より広く共有するために  
「書かれたもの」

それが「法律」です。



…法律について  
「守らないと罰せられるもの」  
「縛られるもの」  
という受け身のイメージを  
抱いてませんか？

私たちの民主主義社会では  
法律は私たちがつくる  
私たちのものです。

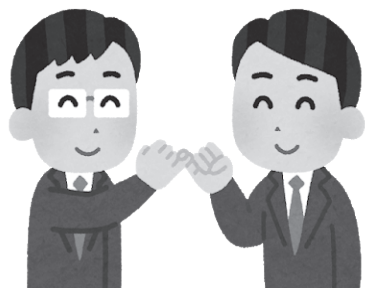
もう少し踏み込んで言えば  
何かあった時に  
私たちを守ってくれるもの

それが「法律」です。

▶ PPT0-6 ★★★

### 「働く」ための約束ごと＝「労働法」

「働ける」状況をキープするということは  
私たちの大切な権利(人権)のひとつであり  
また、健康に暮らしたり、幸福を追求できたり  
という他のさまざまな権利とも結びついています。



働く場を提供する者とそこで働く者の関係は  
対等な契約関係で結ばれています  
むしろその場を提供する側には  
しっかりと条件を整える強い義務が課されています。

働く権利は性別・年齢・国籍といった  
個人の属性によって差ができてはいけませんし  
健康状態やライフステージの変化があっても  
それを理由に妨げられてはいけません。

働く人をトラブルから守ってくれる「約束ごと」  
それが「労働法」なのです。

## 安心して「働く」ための知識＝「労働法」を学ぶ



「働いて、共に生きる」基本的な人権を保障する「労働法」の考え方は、いわゆる正社員として雇用された者だけでなく、アルバイトやインターンなどの場合にも適用されるものです。

大学・短大・高専・専門学校に通うみなさんにとっては、その意味では、就職活動に臨むときにはもちろん、日常生活を「安心しておくる」ためにも、学ぶべき大切な知識なのです。